



置戸出身の児童文学作家 澤井美穂さんの講演会が、1月19日、図書館で開催されました。おけとで過ごした子ども時代の話など盛りだくさんの内容から一部を紹介します。

一 おけとで過ごした子ども時代の思い出

川でカジカやドジョウを捕まえては放して遊んでいました。山で木イチゴや山ブドウも採って食べました。札幌の子は食べられることを知りません。そこにあるのに、見えていても見えていない。もったいないですね。

一 おけとの図書館について

文化を発信できるのは、図書館の規模だけではありません。おけとは一番肝心なところをおさえて、それを続けていけるまちです。また、ここに来れば、新着本も読める、椅子も良い、居心地も良い。町外の方でオケクラフトセンターへ行くという方には、ぜひ図書館も行ってほしいとおすすめしています。

一 書くこと、本のこと

詩人であり児童文学作家の長田弘先生のファンで、先生にどうしても自分の作品を読んで欲しくて、先生が選考委員をしている児童文学賞に作品を出しました。書き始めるとものすごく楽しかったですね。家族があって、仕事があって、私は欲

張りだったのかもしれませんが、日々の暮らしの中にそういうキラキラした期待、希望があり続けてほしかったのだと思います。

1冊の本が出版されるまでには、すごく労力がかかっています。たくさんの方の力がぎゅっとつまった本とは、なんとぜいたくなものかと思いません。本を読むっていいことです。私の本も私の本でないものもたくさん読んでほしいです。

「ずっと書き続けていきたい」と微笑む澤井さん。優しさのなかに凜とした意志を感じました。これからも素敵な物語を私たちに届けてください。

■ 澤井美穂さんプロフィール

1963年生まれ、置戸町出身、児童文学者。高校教師をしながら「赤いペン」で第16回ちゅうでん児童文学賞大賞受賞。昨年7月に2冊目の児童文学「ローズさん」をフレーベル館より出版。札幌市在住。

